



木下三喜甫子作

義春國物之理 全

義春國物之理



13
2120



13
門へ利
2.120
卷

13
2120



藤野 潔氏遺愛之記

華胥國物のつ記



義胥國と云國の事并其つこととさうあるは國の
やうたりつこととさうあるは國の事并其つこととさうあるは國の
のつむのし義胥國の事并其つこととさうあるは國の
ゆきがたつこととさうあるは國の事并其つこととさうあるは國の
あやしに國の事并其つこととさうあるは國の
かゝる事とさうあるは國の事并其つこととさうあるは國の
よもに國の事并其つこととさうあるは國の
南の海をさす國の事并其つこととさうあるは國の



明治二年四月廿四日
藤野 漸
氏寄贈

おしとくをばり。常におもひの上ふのたまふす。臣と
 志すにたててそふ。あはしむる。その日ふ。海山の内を
 おり。ふらふ。おほむをさめて。後ふ。おんせらる。ふの。那の
 さふ。あかり。さふ。みつき。のよぬ。十。系。徳。あはせ。さふ。
 十。系。年。の。あ。み。お。徳。さ。さ。ふ。せ。よ。の。る。は。い。れ。ゆ。
 さふ。よ。と。す。あ。む。ら。れ。を。さ。ふ。て。つ。ふ。あ。人。ら。お。と。ら。き。お。し
 して。さ。ふ。め。て。あ。さ。き。清。い。た。え。あ。の。た。ふ。の。一。年。の。何。れ
 と。い。何。と。ゆ。え。た。き。そ。の。あ。め。む。わ。十。系。徳。あ。は。せ。さ
 せ。ら。して。さ。ふ。あ。ら。ぬ。さ。ふ。さ。つ。り。つ。も。臣。を。せ。め。た。る。を。

人の世のさかきまきそ。やうしと。い。ら。さ。し。ま。あ。ひ
 ゆ。く。と。い。の。を。さ。ら。あ。ら。ぬ。い。あ。あ。さ。さ。ふ。さ。さ。あ。さ。さ。せ
 たる。あ。さ。き。あ。ら。ぬ。の。よ。や。う。て。う。き。あ。ら。は。れ。て。い。さ。ら。う
 かん。む。人。あ。さ。き。せ。し。お。わ。く。の。民。あ。の。さ。ら。を。こ。れ。し
 せ。め。ら。う。さ。ら。さ。ら。い。さ。ら。あ。人。お。た。あ。さ。さ。ふ。さ。ら。あ。さ
 の。ね。く。ち。の。お。あ。た。さ。う。ち。ま。も。り。あ。る。也。阿。ら。あ。君
 身。た。あ。め。て。玉。都。お。あ。う。け。ら。り。あ。て。さ。ら。あ。ら。ち。上。表
 して。ま。あ。ら。ん。ん。臣。子。深。末。比。祖。の。勤。切。あ。ら。り。く。
 お。わ。く。の。お。徳。を。い。ぬ。き。あ。ら。い。あ。の。い。あ。さ。さ。あ。め。て

國を大い盛らしめてもに神を志ほまつきそが是れ
ましくなきに心たふふこそさういよえにほまんにぬる
まのせなむつく休くかうはあまもかなしよぞ
はうしあんとすしそ。諸司ふさすものしく。高柳の郡
年たのこよふし。かたは民すし。とそ。新也。童子
田原。徳をまのこ。或はうくくは。高きあ人ぬる。の
あうにたすし。たそぬ。諸司のものしく。うけはあしそ
或もそあとしめそ。中。編言。くさりぬま。こ。あ。ふ。を
勅書ふ。あ。う。あ。そ。せ。て。や。あ。う。あ。む。ぬ。の。う。ろ。大。ふ。よ。え

あはし相舞し。て。銀。ふ。の。う。ま。き。そ。そ。れ。あ。い。は。し。舞。國。を
馬ふ。難。と。付。は。者。の。の。う。あ。ぬ。の。こ。あ。そ。ふ。二。十。人。ひ。し。し
あ。の。の。そ。さ。こ。え。の。う。そ。そ。と。そ。の。わ。く。用。意。や。あ。
あ。の。う。志。果。そ。ふ。あ。の。ふ。志。を。か。ま。こ。お。志。何。な。と。い。は。え
た。う。そ。ち。よ。え。ん。ひ。た。の。付。し。し。し。え。の。う。も。ひ。し。よ。え。ん。ひ
銀。ふ。ゆ。む。つ。た。え。馬。ひ。き。よ。の。せ。う。ち。は。ま。き。の。銀。の。う。ち。は
ん。あ。な。も。の。く。ま。ほ。し。し。い。の。そ。さ。ら。る。は。あ。と。と。あ。ん
た。の。ふ。と。ら。あ。き。い。は。あ。の。も。こ。う。と。た。ん。を。あ。る。馬。の。う。ち
あ。う。あ。と。と。え。ん。よ。の。勅。書。と。り。た。た。し。し。し。き。れ。よ。と

これ一さきめおかしき。此の理なく。きしひる。た
るふの。めし。教千倍を。い。や。め。あ。き。し。は。が。そ。と。た
が。り。し。り。て。し。ま。の。り。は。年。ら。ふ。の。く。ち。ん。を。入
ち。き。ゆ。の。教。の。お。り。の。れ。い。の。く。も。い。と。持。く
あ。く。の。く。と。ね。い。と。も。寶。花。を。い。し。き。ま。ふ。ま。の。い。の
あ。れ。お。り。の。き。し。の。ま。ま。て。上。の。の。ま。し。る。は。ふ
ら。ふ。お。を。し。く。て。は。ら。ち。あ。い。て。い。ま。い。と。う。ち。て。の。れ
教。を。ら。く。て。よ。し。た。は。は。せ。ら。ふ。あ。き。ん。ら。お。な。る。き
て。あ。き。ゆ。さ。い。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。い。の。の。理。を。い。

む。た。ふ。た。あ。ち。ら。も。人。の。理。を。た。も。あ。き。や。い。の。の。か。の。利。息
て。あ。き。ゆ。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま
あ。き。ゆ。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま
あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま
人。の。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま
あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま
の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま
お。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま
て。あ。き。ゆ。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま。の。い。ま。あ。い。ま

よねらぬまのなへちかとのいせむめ
ゆきまきぬ民もけしひのさるんくもゆめいのしはふ
ひらちふちのいふては天の罰ありやせむこのそ
みんきいおゆいしそあつしむ村の長はゆきたひ
うらたのりかほにうたありぬきむるうそ
かひのめまがらむもそふこのそたひゆきふは
さしんと黄帝神祠の唐おふとしあつあつしけ
よ連累よまらけをあらたまぬふん十人あ
くのさるしものふたせしむる数千人よふ

なあまのりそ谷ふ柿りみちいでこのそとむき
おぬきふらむおさらゆつたそむきあひして強
そふらむかおらるしそらあふいしあふ
しあふしあふ人そ神のけしちのいし
おちのめまらしけしけしとうんちあにのそ
國府ふそしそむかむあひしてはあふいし
たふれとゆめぬめさぬいしそあふいし
しそむのそむをむそふいし民の跡のいし
あふてそふのそあふつけてはあふいし

よきおりのきなき。氏くらあらよる。さびて。そそいて。さうさ
ほし。ふ。そ。れ。年。ま。す。あ。ま。り。り。早。お。系。傳。さ。る。た。る。る。念。ん
つ。あ。し。も。か。の。て。お。ち。さ。い。さ。い。つ。ひ。さ。さ。き。に。た。ら。あ。さ。う。け
そ。ま。も。そ。く。の。し。も。の。あ。い。に。し。ま。し。身。あ。も。し。ま。ら。し。て
つ。あ。ら。う。何。く。い。ん。に。り。あ。て。あ。ん。あ。れ。さ。い。し
た。れ。い。ち。あ。そ。も。あ。い。ん。た。あ。い。の。の。報。も。や。さ。年
う。ち。つ。き。そ。七。年。た。ら。ふ。お。兼。信。君。の。あ。い。ん。に。ふ。た。の。い。ひ
ち。あ。い。ん。の。い。ま。そ。た。の。あ。い。ん。に。都。れ。ち。あ。い。の。い。ま。い。あ。い
報。も。い。ち。た。い。い。あ。い。い。い。た。い。た。い。あ。い。の。あ。い。ん。い

一 報の愛物をい。一 ち。そ。あ。い。の。た。ゆ。ら。の。い。ん
ふ。お。い。ん。は。い。の。お。よ。ね。い。い。の。の。い。ん。は。い。ん。い。ん。い。ん
た。報。さ。る。た。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。都。こ
あ。い。ん。は。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん
い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん
よ。り。式。の。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん
國。ま。は。あ。ら。い。い。の。い。ん。い。ん。い。ん。位。二。等。何。ん。て。世。い。れ
ふ。あ。の。あ。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん
一。と。そ。い。鳥。報。の。ら。い。と。ま。い。の。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん。い。ん

来り毎ふ航とあけしはたわけての
 おひさききりおのきみれいらしての冠おと
 ふちもらゆふらぬあともめはあの子をてねし
 いらぬのひきりしきりたてぬきけしらのひの
 かんきりまてしきりたてぬきけしらのひの
 のひきりたてぬきけしらのひの
 國中にひらまらしておひさきの成りたれり
 世毎そこの人のちきりたてぬきけしらのひの
 のひきりたてぬきけしらのひの村きりたてぬきけしらのひの

人々をふりまてしきりたてぬきけしらのひの
 世毎そこの人のちきりたてぬきけしらのひの
 あひらの世らふらぬきけしらのひの
 人々をふりまてしきりたてぬきけしらのひの
 やうくのひりてきりたてぬきけしらのひの
 のけかりしきりたてぬきけしらのひの
 よくはきりたてぬきけしらのひの
 ちきりたてぬきけしらのひの
 きりたてぬきけしらのひの

Handwritten text in cursive style, likely a letter or a record, written in black ink on aged paper. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' style.



文政戊寅冬十月

廿二日 福齋道人

寄於西宮兩情處



右同人之西...

高...

...



山...

中...

...



